

旗をあげる

登場人物

A

B

C

閉店して久しい土産物店の中。

辺りには数個の段ボール箱が積まれている。

エプロン姿に長箒を手にしたA。

店にやって来たとおぼしきBとC。

Cは小型のラジオのような機械をいじくり回している。

A ……よく理解できませんでしたので、もう一度お願いします。

B ですから、困ってるみたいなんで連れてきたんです。

A ……ここは交番ではないのですが。

B 知ってますよ。土産物屋さんでしょ？ 以前、買い物に来ましたから。

A もう何年もお店は開けていませんけれど……。

B その時言ってくれたじゃないですか。「困ったことがあったら、いつでもいらっしやい」って。覚えてませんか？

A 覚えてますよ。三年と二百六十八日前です。

B 「よそ者同士、なにかの時はお互い助け合いましょう」って。

A あなたにそう言ったのはご主人さまです。今はおいでになりません。

C (機械をいじりつつ) あー、日本語で話してもらってもいいですか？

A 何語に聞こえてるんですか。

B ほらね？ 困ってるでしょう？

A 困ってるのはこちらの方です。

C (機械を叩いていたが) あ、大丈夫だ。失礼しました。翻訳機の調子が悪くて。(機械をポケットにしまいながら) 何か食べ物を分けていただけませんか？

A ……(Bに) 困ります。おなかをすかせた宇宙人なんか連れてこられても。

B (段ボールを開けて覗きながら) ご主人、どちらへ行かれたんです？

A (それを止めようとしながら) ご自分の星へお帰りになっています。

B (制止にめげず) へえ、里帰りですか？

A (さらにやめさせようとしながら) 治療のためです。持病が悪化されたので。

B (構わず) それはご心配ですねぇ。

A (攻防を続けながら) ご回復を心よりお祈り申し上げております。

B (負けそう) 地球でのセカンドライフをあんなに楽しんでいらしたのに。(最後の抵抗) お戻りのご予定は？

A (制圧にかかる) ご体調次第かと思いますが。

B 痛い痛い痛い。参りました。

A 勝手なことをしないでください。

C (別の段ボールから取り出したジュースを飲んで) はあ、生き返る。

A (Cに) あなたもです。

B ふう。やっぱり力じゃありませんね、ロボットには。

C ロボット？ え？ この方、人間じゃないんですか？

B ご主人のお手製だそうですよ。すごいテクノロジーですよ。パッと見じゃ全然わからない。

C じつと見ても全然わかりませんよ。ロボットらしさを微塵も感じさせないじゃないですか。

A とにかく私はただの留守番ですので。

B まあ話だけでも聞いてあげてくださいいよ。

C 住んでた町が焼け野原になってしまつて。

A ……戦争かなにかですか。

C それがよくわからないんですけど……でもまさか戦争ってことはないですよ。(二本目のジュースに手をのばしながら) だつてみんなでひとつのおんなじ星に住んでるんですよ？ そんなことする理由がないじゃないですか。多分、山火事かなんかです。(飲む)

B (店の中をあちこち見回しながら) 「できるだけ遠くに逃げろ！」って誰かが叫んでるのを聞いたんですって。

C それで必死にここまで逃げてきました。

A 「できるだけ遠く」の解釈がダイナミックですね。

C 当たり前の毎日って、当たり前にずっと続くわけじゃないんですねぇ。(飲み

干し) これ美味しいです。

A 賞味期限が二年は過ぎているはずですが。

B お店閉めてるんだったら、ここに住まわせてもらえませんか。

A そういうお話でしたら、店主不在ではありませんが速やかにお店を再開します。

C だったらお手伝いします！

A お断りします。

C ……(悲し気に三本目を手に取りながら) 私が地球の人間じゃないからですか？(缶を開ける)

A 断りもなく店の商品に三本も手をつけるからです。

C ……わかりました。時給は三百円なんですね？

A (ポケットを指し示しながら) 翻訳機！ また不具合のようですよ。

B いいじゃないですか。みんなでお店開けましょうよ。じゃあ我々は住み込みの従業員ということで……。

A あなたこちらでの生活もう長いですよ？ ご自分のお宅に居候させてあげればよろしいのでは。

B よくぞ訊いてくれました。

C お待たせしました！ 直りました！

A 訊いていませんし待っていません。

B 実は私も困ってるんです。アジトにしていた空家に取り壊されちゃったんですよ。

C それで行き場を失くした異星人同士、すっかり意気投合しちゃって。

A 住居のことを「アジト」と呼ぶような人物と意気投合するのはいかなるものでしょう。ひよっとしてご存知ないんですか？ この方が地球に来た目的を。

C ええ。まだ名前も聞いていませんから。

A 三年と二百六十八日前の午前十一時三十七分、鼻息荒くご来店になったこの方は、旗をお買い上げになったんです。

C ハタ？

B (段ボールから「地球」と書かれたペナントを一枚取り出し) これですこれ。

A 「地球を征服した暁には、その印にこの旗をブツ射してやるんだ」とか仰つて。

C ……ウソでしょう？ あなたそんな……今時子どもだって口にしないようなバカげた夢のために？

B だって地球ってすごく綺麗じゃないですか。小さい星の中にこれでもかかってくらしい面白いものいっぱいつまってるし。そういうのって、なんか手に入れたくなりませんか？

C 危険な考え方ですよ！ こんなに美しい星を、独り占めしようだなんて。

B 征服できたら、地球中の美味しいもの食べさせてあげますよ。

C ……計画は順調に進んでるんですか？

A あなたもなかなか危なっかしい人ですね。

B 計画なんてろくすっぽ立てずに勢いで来ちゃいましたからねえ。思うようには全然進んでませんけど、ま、ご主人からアドバイスもいただいたんで、焦らず気長に……。

A は？ ご主人とは私のご主人さまのことですか？

B そうですよ？

A なにかの間違いです。悪の片棒をかつぐようなことを仰る方ではありません。

B それが教えてくれたんですよ。私が旗振りながらお店出ようとしたときに。

A あり得ません。あり得ない。あり得ねえ……。

C (Aの異常を察して) 大丈夫ですか？ (と肩に手を置き) アツツ！

B 耳元でこっそり (内緒話を再現するように) 「君のその夢を叶えたいなら……」

A 寝ぼけたこと言ってんじゃねえぞ、やんのかコラッ！

C (慌ててAを取り押さえ) うわ！ すごい熱もってる！

B 冷やした方がよさそうですね。

鼻息の荒いAをクールダウンさせようと、Cはジュースを頭にあてがい、Bはペナントで扇ぎ、二人でフーフー息をふきかける。

C こんなにアツアツになるほどムキになってもらえるなんて、ご主人、お幸せですね。

B かしなあ。これだけ完成度が高くて忠実なロボットを作れる腕があるのに、なんでまたよりによって土産物屋なんか。

C やっぱり儲かるんじゃないですか？ なんてったって地球は惑星観光ランキング不動の第一位ですから。

B いや、土産物屋は世を忍ぶ仮の姿かもしれませんよ？ 人のよさそーな顔してましたけど、実はなにか壮大な企みが……。

A 企みなどありません。

C あ、熱冷めました？

B (触って) うん、だいぶ冷えてきましたね。

A ……忘れてください。

B ああ、さっき喧嘩売られたことなら気にしてないですよ。

A ご主人さまが何を仰ったかは存じませんが、あなたによからぬことを吹き込んだのだとしたら、それはきつとご病気のせいです。

B あの時はいたってお元気そうでしたけどね。ニコニコ笑ってたし。

A いろいろなことを忘れておしまいになるんです。私をお作りになったのも、メモリー機能と生活のサポートを兼ねてのことでしょう。大好きな地球ですつと療養なさっていました。病状は進む一方だったので。

C お土産屋さんなんかやって大丈夫だったんですか？

A 働いていた方が気がまぎれると、この店を始められました。土産物は、起動装置になるところがいいんだと仰って。

C 起動装置？

A 旅先での出来事や風景や、そこで見たもの食べたもの。お土産を渡したい人のこと、それを買ってきてくれた人のこと……。そういったメモリーデータを開くための、スイッチになるんだと。

B 確かに！ この旗を見ると、地球に降り立った時のワクワクした気持ちを思

い出しますもん。

C でも、ご本人はどんどん忘れちゃうんですね？

A はい……。ですから（どんどんうなだれながら）……。もう、ここに……。お帰りには……。ならない……。かも……。 （固まる）

B ……フリーズしちゃいましたね。

C （触ってみる） つめたっ！

B 今度はあつためますか。

BとC、Aをさすりながらはーはーと息で温める。

B ほらほら。そんな「かもしれない」なんてことを気に病んで冷え込んでてもしょうがないじゃないですか。

C 大丈夫です。ご主人はきつと帰ってきますよ。

A ……なにを……。根拠に……。

C あなたに留守番させているのがなによりの証拠です。

B そう言えば、普通は連れて行きますよね。サポートのためのロボットだったら。

C 戻ってきたいからですよ。私だって、もしも大事な人を残してきてたら、こんなふうに「地球暮らしもいかなく」なんてのんきに構えていられません。

B あなた大して困ってないですね。

C この小さなお土産物屋で、あなたが帰りを待ってる。それだけは絶対忘れなはずだって思ったんです。だからあなたを置いていったんですよ。

B じゃあやつぱりお店開けないと。

A ……なにを……。根拠に……？

B だって閉めっぱなしじゃ帰って来ても自分のお店だって思い出せないかもしれないですよ？

C （三本目を一気に飲み干し）早速開店準備にかかりましょう！ これ、奥に片付けちゃいますね！（と段ボール箱を次々に運び始める）

B そうだ、ついでに、こいつを、こうして……。 (と放り出されていた長箒を持って来てペナントに細工を始める)

A (それまで呆然としていたが) あの……。ご主人さまが、あなたに耳打ちされたことって……。

B あなたが考えてるような物騒なことは仰いませんでしたよ？

A ちなみになんと……。

B 「一緒にいるだけで楽しい仲間を作りなさい」と言われました。「その人たちも同じように、一緒にいたいと思ってくれたら、今いるその場所は君のものだよ」って。

A ……そうですか。

B なので私は地球人全員にそう思ってもらう予定ですが。

A 過酷なプロジェクトですね。

B ご主人も、あなたのことをそんなふうに思ってたんじゃないですか？

A ……そんなふうに、とは。

B ただの便利なロボットじゃなくて、一緒にいたい仲間だって。

A ……ナカマ……。

C (ご機嫌で戻って来て) お店やるのもウキウキですけど、こうして仲間が出来たことが一番うれしいです！

A ナカマ……？

C 私、自分の星では親しい友だちとか一人たりともいなかったのです！

B よし！ 出来た！ (ペナントに箒をつけたものを高く掲げる) ご主人が帰ってくる目印になるように、これをお店の前にブツ射しましょう。

C カッコいいですねえ。(Aに) この旗、私も一枚もらっていいですか？

A 一九八〇円です。

C (一瞬切ない) ……友だち割引でお願いします。

A ……トモダチ……。

B さあ！ お店開けますよ！ (と旗を持って外へ向かう)

C 緊張でなんだかおなか痛くなってきました！ (とBに続く)

A
……それは恐らく、古いジュースの飲み過ぎです。(二人に続く)

おわり